

# 川崎の男女共同社会を **すすめる会通信** No.164

●連絡先 藤井光子 [hymico@me.com](mailto:hymico@me.com) ☎& FAX 044-944-7872 ●発行日 2015年 2月10日  
〒214-0003 川崎市多摩区菅稲田堤 3-8-2-503 ●HP <http://web-k2.jp/ssk1985/>

メールアドレスが変わりました！新▶ [hymico@me.com](mailto:hymico@me.com)

## ♪男女共同参画協働事業 第4回講座に43名！

若者／女性にとっての貧困とこれから…  
私たちにできることは！

快晴の1月18日、大西連さん（認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい理事長）の話を聞きたいと、43の方が集まって第4回講座は大成功、熱気あふれる学習会になりました。

22名もの事前申し込みがあり、市外からの参加者10名、川崎市内でもチラシや新聞報道を見てきたという方が10名も！

とりわけ主催者の私たちも驚かされたのは、盛岡女性センターや、とちぎ男女共同参画センターから職員の方が泊りがけで上京し、参加して下さったことです。

大西さんは若者や女性の貧困問題を可視化しようと、豊富な資料をわかりやすく話され、質問や意見も続出！あつという間の2時間半でした。（詳細は2～3面）

盛岡やとちぎからも…  
大西さんの話聞きたくて…!!



第10回 すくらむ21まつりに展示で参加します！

\*展示のテーマは\*  
**川崎の女性たちの歴史  
を知ろう！**

**2/15 (日)**  
10:00～15:00

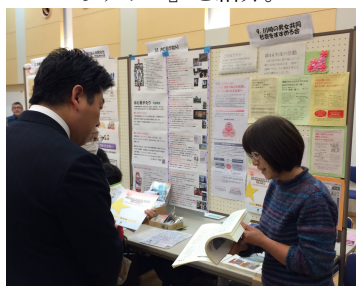
- \*『川崎の女性のあゆみⅡ』の紹介と販売や活動紹介。
- \*「性別にかかわらずなく、誰もが個性や能力を発揮し、いきいき暮らせる社会」をめざした～かわさき☆かがやきプラン～の展示をします。見に来て下さいね！

1/31 市民活動センターごえん楽市にも展示

↓ 福田市長に『川崎の女性のあゆみⅡ』を紹介。

講演  
落合恵子さん  
13:00～14:05 ホール  
「今、共生の時 女と男が共に生きる社会」

\*男女平等  
かわさきフォーラム



## 15年度 総会のお知らせ

**4/25 (土) 13:00～16:00**

2015年度の総会を下記の通り開催いたします。お忙しい中とは思いますが、ご参加よろしくお願いたします。

### 《第1部》

- 第32回総会 13:00～14:00  
2014年度 活動報告・活動のまとめ  
会計報告・会計監査報告  
2015年度 活動計画案・予算案など

### 《第2部》

- 講演 14:00～16:00  
講師 交渉中
- 場所 川崎市男女共同参画センター  
すくらむ21 (4F多目的室)

## 若者/女性にとっての貧困とこれから

### 自己紹介

都内の男女共同参画センターに自分のパートナーが勤めている。

若者/女性はより貧困問題に陥りやすくなっているかもしれない。一方で日本全体の貧困化が進み、拡大している。そのなかで個別の特徴にあわせた貧困問題の解決が求められている。

**もやいの活動**～困ったときは「お互い様」と言える社会をめざして～

① **もやいの活動の使命**は、貧困問題を社会的に解決すること。もやいとは、船と船をつなぎあわせるロープのようなもので、寄り添って共同で事をなすという、ゆるくつながっていけるというイメージ。強すぎるつながりは人を追いつめてしまう傾向がある。

2001年設立 2003年にNPO法人化。おそらく国内の貧困問題に取り組む初めての団体であり、一人ひとりの生活の再建と人生の再出発を支えていく活動をしている。

### ②もやいの活動

2001年 自立支援センター設立

ホームレス支援のボランティア活動メンバーが中心。ホームレスの人がアパートに入る際の、保証人事業、累計2600件。現在900件。連帯保証人での問題はほとんどない。20件に1件程度は多少問題がある。保証人のニーズは、ホームレスだけでなくDV被害者の女性、外国人、傷病、障害者 なんらかの理由で実家と縁を切っている人等、入居支援事業として継続している。2004年頃～アパート入居後の「孤立」の問題の解決のための1つとして交流事業がスタートした。

2006年頃～「ワーキングプア」「ネットカフェ難民」

→新しい貧困層の可視化と生活相談の増加

2008～2009年 日比谷公園にて「年越し派遣村」→湯浅誠氏、内閣府参与へ 国の施策に関わる →各事業ともに「ニーズに応じて」スタートし、結果的にパッケージがそろった。

③**社会的に解決すること**について。目の前の人を支えながら、どう社会に還元していくのかが、課題である。

★当事者のエンパワーメント（ミクロ的視点）

- ・ニーズに合わせた相談支援（安全のために）
- ・「居場所」や「社会参加」の機会の担保（安心のために）
- ・地域福祉をどう向上させていくのか、

★社会資源を充実させる（マクロ的視点）

公的な社会資源の活用・創設する→ないものは提言していく。

民間団体等のネットワーク作りとして、どのように連携すれば、新しいことができるのか、もやいとして、

## 大西 連さん

制度を提案しても、制度を受ける(委託事業)ことはない。基本は寄付のみで運営している。

社会の既存の枠組みにとらわれず、その人の状態に着目する活動を心がけている。

★貧困とは何か

日本の貧困の「実態」

### ★絶対的貧困

1日1ドル以下の生活（約12億人 2000年人間開発報告書）→食事がとれない。病院にいけない。衛生状態が悪く、生存が脅かされる状態。

1日1.25ドル以下 1990年36.4% →2011年14.5% グローバリゼーションで、貧困地域の底上げになったが、格差問題が深刻になる。

### ★相対的貧困

国民一人ひとりを所得ごとに順番にならべ、真ん中の人の所得の50%に満たない人の割合

・日本では6人に1人が貧困状態＝年間の可処分所得122万円以下、子どもの貧困率16.3%・・・一見ゆたかな一方で、**子どもの6人にひとりが貧困** 給食費も払えず、進学をあきらめる状態。

貧困率は、日本は世界第3位の経済大国である一方、貧困率はメキシコ、トルコ、アメリカについて4番目。

★どんな人が貧困に陥っているか、4つの理由。

- 1 **収入がない**。(仕事がない、働ける状況でない)
- 2 **資産がない** (貯金・住まいなどが無い)
- 3 **使える社会保障制度がない** (セーフティネットの貧困)
- 4 **頼れる人** (家族・恋人・友人など) **がいない**

・ひとり親家庭：貧困率54.6%、シングルマザーの80%が働いている。先進国で最も働いているのに、一番悪い状況。・単身女性：3人に1人が貧困（男性は4人に1人）・移住者：生活保護利用率（2007年）3.46% 日本人は、1.21%・障害者：貧困率56%（所得の中央値50万～100万）

日本の社会保障のボトムである「生活保護制度」の利用者216万人。

人口比1.6% 本来受けるべき層は推定400万人とされる。高齢世帯45% 傷病・障害世帯30% 以上は年金制度が確立されていけば不要。より困難な人が制度に支えられていない。

母子世帯7% その他18% 高齢、疾病・障害、母子世帯など、困難な状況にある人を支えており、「最後のセーフティネット」とも呼ばれる。

- ◆ NPO 法人を2つやっていて、子育て応援を2年間川崎でやってきました。もうひとつは多世代交流を地域でやってきてコミュニティカフェをやっています。子育ての環境は決してよくなっていない。母子家庭の問題、母親の負担もどんどん増えています。地域でも共働き家庭が増えて、主に専業主婦家庭の子育て支援をやってきたのですが、10年前と比べたら共働き家庭が倍位になっている。働いているお母さんの問題も、子どもたちが大きくなって不登校、ひきこもりの子たちが増えている、ママトンキッズのスタッフが60人くらい登録しているが、そのスタッフの中にも不登校、ひきこもりの方がとても増えています。そして将来に不安をいただいています。これから社会に出て自立していけるのだろうか。一人暮らしの高齢者も増えています、お互いに助け合う社会というのはなかなか築けない。課題を表に出さないといけないのではないかと、この3年間地域課題をみんなで話し合おうみたいなことをやってきたのですが、なかなかきびしい。就労支援のネットワークをつくりたいと昨年からはじめています。
- ◆ もやいが公的なところに提案して実現したことがあったら教えてください。
- ◆ 単身で働いている女性が年金をもらうようになるが、その年金額では生活できない、生活保護より少ない金額で生活しないといけない。どのようにしたらいいかを聞きたい。貧困女性を作らない政策（セイフティネット）が必要ではないかと思っているが。

大西 問題点があってこれが出来ないという時→それを可視化しないとねといいます。ある問題を抱えている人が来ている人の中に何割いました。何%の人がこういう背景でこういう課題をかかえていた。アンケートとか聞き取り調査で形にしていく。予算がつくことは難しいのですが、たとえば市議会の人とかに説明したり、ハードルが高くなりますが、請願とか陳情とか。提案書みたいなのが作れるとすぐ違うのではないかな。

**ホームレス襲撃** 山谷地域で、地域の支援団体から最近暴力がひどいので、アイデアもらえないかと言われたので、(実態) 調査してみようとなった。このアンケートは1日で終わりました。午前中にアンケートとってねと依頼、炊き出しとか夜回りのときに聞いてもらった。1箇所の支援団体で30人でも、10箇所では300人になる。研究者ともやいが分析して、要望内容になった。

**貧困率**が日本で発表されたのは2009年です。民主党政権になってはじめて発表された。統計はとっていたけど公表されていなかった。厚労省と三菱総研だけが知っているみたいな。いろんな支援団体が民主党にアプローチして実現した。これは私たちだけではないが、私たちも大きな影響を与えた。

**ホームレス支援法**も2002年にできたが、支援団体、大阪、名古屋、北九州の人とかで連名でアプローチして、議員立法になったとか。

でも、私たちが望まないことになってしまうこともある。昨年出来た**生活保護自立支援法**ですが、経済的な貧困だけでなく人間関係、つながりの貧困もあると、2つの視点で貧困問題を考えないといけないとずっと言ってきた。いざできた法律は、もともとは生活支援だったが、結果的には就労支援に特化した。作りたかったものにはならなかった。いろんな団体がかかわったが(もやいは)離脱することになった。難しいのですが、大事にしていることは当事者の目線で提案ができること、既存の枠組みにとらわれないで当事者のニーズは何か…に、こだわることを大事にしています。もやいは委託を受けないので、縛られないで活動できる。

例えば貧困ビジネスは、ここの会議室ぐらいの広さに二段ベットを10個ぐらい置いている、自治体にしてみれば他にないから助かると紹介します。この問題は難しい。

**年金の問題**も今後崩壊していきますね。今国民年金は満額で65,000円です。これで生活できるかというところ出来ない。生活保護制度ですべてを支えられるかというところは難しい。生活保護が担っている機能が大きすぎる。生活扶助、医療扶助、介護扶助、住宅扶助、葬祭、出産、生業等8種類ある。先進国ではこのような国はあまりない。

ヨーロッパでは医療は医療で別になっている。イギリスは医療に関しては制限がある。初めは診療所

に行き、それから大きな病院へ。医療は医療の制度、住宅は住宅の制度を作っている国が多い。日本には公的住宅は6%しかない。持ち家が7割、公的住宅が少ないにもかかわらず公的な住宅政策がない。家賃を補助する制度がない。フランスは住宅手当として家賃を補助する制度がある。ドイツは持ち家を持っている人にもある。日本は求職者だけ、9カ月しか使えない。3年間で15万人ぐらいが使っている。他の国でうまくやっているところもある。年金の額を上げるのは多分むづかしいと言われている。

65000円でも、住宅、医療など別の制度があれば。年金以外の制度を作っていかなければならないのと、再分配機能（持っている人から持っていない人に移す）を作っていないといけないと言われている。

OECDは最初から裾野をひろげる政策を言っている。低所得者に給付をする、全体の底上げをはかるといふもの。国際的には潮流になりつつある。生活保障型福祉に変えようとしている。給付をもっとちゃんとしないといけない。そうしないと社会全体の底があがらない。

- ◆ 若者の問題についてお話をしてほしい。私は若者問題で川崎市内で何かをやりたと思っています。今年は学習会的なものになりますが、若者担当する窓口がない（青少年課はあるが）。貧困問題ではかなりやられているが。
- ◆ 若者はどんどん非正規にされている。（竹中平蔵氏は正規労働者はいらないといっている）
- ◆ 社会保険が機能していない。雇用保険20時間1ヶ月以上見込みがあれば加入となっているが、社会保険30時間以上働いていないと入れない、ダブルワークで国保払えない、住民税払えない。横浜ではすぐ差し押さえが出てくる。雇用保険入っている人は労働者の中で1~2割ではないでしょうか。若者のブラックバイト、高校生のアルバイト、（生活費のため、学費のためやめられない）の問題。労働問題、社会保険、貧困リンクしているが行政も縦割り。声をあげていかなければ。
- ◆ 小さいときに描いていた大人の社会、生きにくい、何でだろうな？ いろんな本を読んでいるが。将来の不安として年金もある。最低賃金神奈川は887円(10月にきまった)、1日8時間20日間働いても14万円ちょっとしかならない。1回非正規になると正規に戻る事が難しい。
- ◆ 貧困に対して、偏見があったり、認識不足だったり、自分が貧困、不安定層であることの認識がなく、どうしてあなた働いているのにあなた貧困なの？ 周りの意識を高めていくためにはどういうことが必要なのか。
- ◆ 一般企業に新卒から勤め始めて20年になっています。日ごろ女性差別にむかっています。どこから来るのかなといろいろ考えていました。大きく感じているのは社会保険、社会保障制度、家族が大きく絡んでいるのが分かりました。給料からかけられた年金をもらうとなると、明らかに女性の方が、女性として生まれたただけなのに賃金格差がかけられているのは、これは死活問題でもありますし、憤りのもう1つの原因でもあります。家族制度が別にあるということに非常に強く感じています。震災以降きずなというのが非常に強調されて、私はいやな時代が来るなと思いました。女性の貧困層が増えるのは明らかではないかと思っています。何とかしなければいけないと思っています。女性は区分けされてしまう立場だと思っています。独身か既婚か、既婚でも子どもがいるのかいないのか。どの女性でも自分が生活したいと思う方向で生活出来るような世の中にしていきたい。女性の意識改革もしないと解決しないのではないかと思っています。人権意識が日本は残念ながら欧米より低いと思います。自分を尊重したければ他人を尊重するという意識が欠けているので、共感すると言うことに欠けているかと思っています。長い道のりにはなるのですが、まずその意識を根付かせるにはどうすればいいかと、女性が団結してやらないと女性自身が幸せにはなれない。敵はだれなのか、誰が一番得するのかと考えてやりたいとは思いますが、それをうまく動かせるにはどうすればいいのか。抽象的感覚的な質問ですが、教えてください。
- ◆ 盛岡の最低賃金は700円にもみたくない。こちらに来て食料品など見ますと、こちらのほうが安いものもあります。ほんと生活がしにくいところです。

大西 若者の話、今回なかったのですが、どう入れたものかと思っていて。若者が置かれている状況、例えば非正規労働が圧倒的で、15歳から25歳の非正規率は2人に1人。正社員であっても1回辞めたり転職したりすると非正規になってしまう。

一番最初に相談に来たのは2004年～5年ころ、可視化しようとメディアにあげた。可視化されたが解決していない。手配士がやっていたのが、いつの間にか合法的になって、日雇い派遣という形になった。(竹中さんはパソナの名誉会長)派遣法の改正が国会に出るだろうが、もともとは専門職だけだったのが、一般の業態にも広がり、今は年数が決まっているがそれもゆれがあるという形で、雇用の流動性を高めようといっている。メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用といわれているが、欧米はほとんどがジョブ型雇用だが、社会保障が個人単位でついている。日本は社会保障をスルーして取り入れようとしている。安いから雇い易いが、ただの切捨てになってしまう。

**雇用の問題** オランダはワークシェアリングといって、1日6時間とか、週に何時間とか、賃金下がるが、カバーするために社会保険完全適応。労働規制をゆるめると社会保障を厚くしないと。正社員だった日本企業は社会保障なくても企業がやるからよかったが、雇用の規制をゆるめることは、社会保障で代替しないといけない。議員にもロビー活動しているが、仕事さえあればいいだろうとなかなか分かってもらえない。働きやすくすれば、企業活動はよくなると。しかしその人個人がずっと低所得のまま将来働けなくなると、社会保障が必要になる。しかし経済さえよくなれば何とかなるだろうとなかなか理解されていない。現状は派遣労働40年間続けたら65歳になると生活保護になってしまう問題について実感を持って知ることが出来るか、顔が見えるか、困っている人が手に取るようにわかるだろうか、自分のこととして考えるためにはそれが必要。

半径10メートルのレベルで出来ると大きいのではないか、問題を知らないことに気づかないのでは居酒屋談義になってしまう。身近な問題で、自

分の学校のクラスで例えば貧困の子どもが5人いる、気づかない。

2008年2009年の年末に年越し派遣村の活動をやったときに若者が派遣をきられた。可愛そうに大変と、ニュースになり、寄付が沢山集まった。この問題解決すると思った。正月明けてからメディアの方向がガラッと変わった。ホームレスがまざっているとか、なぜ実家に帰らないの？あいつら怠けているんじゃないの？とかパッシングモードになった。

翌年には東京都が公設派遣村をやったのですが、メディアの人が、その人たちがお酒を飲んでいて、テレビ局の人が酒を買って飲ませたのですが、このようにガラッと手のひらが変わるように変わる。インパクトがあることが起きると、一見報道されるのですが、自分と離れていると逆の方向に向くこともある。事件があっても意識ってなかなか変わらない。本当に10メートルの範囲で変えていくしかないと思っているので、皆さんが、地域で、職場で、家族でこういった問題をどんどんシェアしていくことが必要。

多くの人は自己責任と思っている。生活保護のことを記者会見してそれが記事に載ると、インターネットのニュースを見るとコメント欄にもものすごくヘイトスピーチが並ぶ。関心を持っていく人を増やしていく。私たちがやった一番大きなことの1つが、生活保護の申請を簡単にできるようにしたこと。申請の仕方をWebにあげたとか、申請書をだれでもダウンロードできるようにしたとか、ファックスでも手紙でもいいということを各支援団体に伝えた。いろんなノウハウを知らしていく。この10年で生活保護の受付は劇的に変わったといってもいい。意識改革というのは本当に難しい。派遣村のときの教訓も。言わないだけで困っている人が増えているので、顔が見える人が増えている、身近にいる、オープンになるわけではないけれど、打てば響くような環境。残念ながら当事者が増えているので、もっと丁寧な議論をちゃんとやっていくしかない。

きでしょう。

★貧困・女性の問題について興味を持ったのは、ここ1～2年のことでした。子どもも大きくなり、それらの人たちの支援に関わる仕事をしたいと思い、勉強を始めたところです。今回はこのようなセミナーに参加する事ができ

## 感想▶▶▶アンケートより

★企業勤めしていた頃にはみえていなかったことが、退職後たくさん見えてきました。企業の業務効率化と十分な給与をもらっている人のプロボ活動は推進していくべ

大変参考になりました。ありがとうございました。

★貧困について日本社会の構造の問題を浮きぼりにした講座となった。暗い未来の話が多かったが、身近な問題をもっと真剣に考えなければと思う。

★わかりやすい話で、充実した学習会でした。

★私は25歳でNPO職員です。職場は既婚女性のみで、男女差別を感じることはありません。しかし、近い将来に結婚・出産を考えた際に、給与の少なさ(10万いかいかない程度)を不安に感じています。だけれども、地域の中で山積みになっている課題に直面し、向き合うことが出来る今の環境で働けることを誇りに思っています。暗く、悲しい課題が多いですが、大切なことに対して真摯に向き合い、子育てもし、日常に喜びを見つけれられる人生であれば、十分生きている気がします。

★学生時代に山谷の炊き出し、幼児相手などしたことがあり、貧困問題の様子の変化もお聞きでき、今の若い方々の奮闘を大変心強く思いました。当時の炊き出しの公園も封鎖されていたことが“見えなくしている”社会の姿勢があることが、お話を聞いてよくわかりました。

★人権問題を語るときに、当事者性を持たせることが非常に重要だと感じています。どんなに、たとえ事例を交えて訴えても、それはどこかの可哀そうな人のことであって、自分事と感ぜられなければ何も届かない(上から目線で終わってしまう)

★若者の話が最後に出ましたが、また、経済政策と社会保障とのアンマッチもありましたが、若者が社会に出る前の教育(キャリア教育)にコストをかける事こそ、将来の社会保障のコストを縮小する早道だと考えます。英語や道徳や英才教育より、社会でよりよく生きる力を身につけられる教育を!

★大変わかりやすく勉強になりました。若者とつながることは難しいのですが、地道にやる必要がありますね。

★もやいの活動は注目しています。新宿の年越し派遣村も何日か参加したこともあります。

★ボヤッとは感じていた貧困について、実際に問題に向き合っている大西さんの話にとってもショックを受け、鮮明になった。中小企業で働いている(全員正規)、そんな中でも貧困(隠れている貧困)を垣間見ることがある。育休が取れるのに取らないとか、アルバイトをしているみたいとか、もっと認識を高め、社会問題としてとらえなければと感じた。

★今日は、本当に参加させていただきありがとうございました。自分のことも含めこれからも(現在も)社会の問題として、何とかしていかななくてはならないことの重要課題だと切に思っています。講座を企画していただいた皆様に感謝します。

★とてもよい企画でした。ぜひ、「若者就労支援」ネットワーク作りにご協力ください。

★少子化について、少子化を解決すべきなのになぜ?少子化であるから…となるのか。

★子どもが生まれても…この希望がもてない状態。やはり、未来に希望が持てる社会が一番必要では!!

★男性に比べ女性の給与が低いと、非正規雇用が多いなどの理由で、貧困問題が騒がれるまえより、女性問題はあると思う。安倍内閣は「輝く女性」とか言っているが、根本的な社会の仕組みを変えないと、そう簡単には解決しないと思う。

★よく「税と社会保障の一体改革」という言葉を耳にするが、結局は「自助努力、家族の支え合いが」基本であり、「社会保障給付の主要な税源は消費税」と言うことだと知ってびっくりした。結局は政府が社会保障・福祉を切り捨てる方向にむかっているということなのですね。

★問題を意識化する「見える」ことが大事であると感じるが、その答えを聞いたり、言える場がもっと簡単にできる窓口がないとダメなのでは…?

★動ける人はまだいいが、家から出られない人をどう救うか。

★NPOもやいの大西先生のお話が効けてよかったです。生活保護の話も聞けて、参加されている方の意識も高く、勉強になりました。

★今日はありがとうございました。お話聞いて、ますますこれから先の生活が不安になりました。それでもがんばって行こうと思ってます。

★日本と言う国を、今までと変えようとして、これまでの資本主義から「新自由主義」とか言って意識的に格差社会を作っていると思います。国民の99%は貧困にされても気づかないようにされています。新しく制度を作ったり変えたりする手法の元はアメリカ追従型の新自由主義の教育。今後もっとも格差社会が広まると思う。

★子どもの貧困も政府が意図的に考えて、教育に金かけられない家族を作ること、ビジネスの選び方も制限されて、兵隊さんになるしかない世の中にされることで過去の戦争のできる国に逆戻りなのか?

★女性も輝けると言うことは兵隊さんになることを勧めてるのか?政府に疑問を持っています。

★とてもよかったです。若い活動者のお話には未来を感じます。

★若い人にどうやって伝えていこうかが課題です。

★大西先生のご講演も良かったが、質問や意見も活発に出て、その点も良かった。司会の方の力量が優れていた。これだけの内容 無料とは頭が下がります。

★貧困は、重層的な問題であり、背景にさまざまな問題がある。

失業、労働問題、家族関係、暴力、ジェンダー、自死、ハラスメント、差別、不安定な仕事、社会的排除、借金、病気、孤立、虐待、障害、依存症、ホームレス  
上記は貧困の要因でもあり、結果でもある。

### 移り変わる貧困

★・ホームレス概数調査、2003年 25,296人から 2014年 7,508人

・住まいの多様化。もやい来所者で野宿者は4割以下。安定した住居は、約3割で実家、知人宅、飯場、ネットカフェ、ホテル などは、国の統計にでてこない。

・2000年以降、非正規労働者が増加。不安定な雇用が一般的に。非正規労働者の場合 15.3%

(1984年) 15.3%→35.2% (2012年) 3人にひとりが非正規労働者。

★・ホームレス状態の多様化

生活困窮層 (住まいの状況による区分け)

A 定住型ホームレス・・・屋外にテントや小屋を建てて路上生活

B 移動型ホームレス・・・段ボールをもって移動しながら路上生活

C たまにホームレス・・・お金ある時はネカフェ等、ないときは路上生活

D ネットカフェ難民・・・ネットカフェやファストフード店などで生活

E 不安定住居層・・・脱法ハウスや安宿など宿泊施設等で生活

F 住み込む層や実家暮らし(ニート・ひきこもり層)等

・D E Fは、ホームレス経験なしで不安定な仕事をしている。実家暮らしは親が亡くなったらどうするのか。

### ★2013~14年「ふとんで年越しプロジェクト」相談者の概況

シェルター利用者約20人 平均年齢は、46.2歳

A群 長期路上生活層・・・軽度な知的障害や精神疾患などがあり、支援につながりづらい。

B群 路上と支援を行き来している層・・・依存症の問題や精神疾患等により、制度に繋がっても継続しない。既存の支援のメニューが不十分で支えきれない

C群 不安定就労&不安定住居層・・・若年層が多く、就労は可能でも、不安定な住まいと不安定な就労形態から抜け出せずにいる

★非正規労働者の男女比較 (ジェンダー差) は顕著 (総務省労働力調査より) 男性 19.7% 女性 54.5%  
ともに2012年 圧倒的に女性が自立しづらい。

★年収200万円以下の給与所得者の割合

男性 10.1% 女性 43.2% 2012年 そもそも女性は以前から貧困状態にとめ置かれている。

★もやい来所者の健康状態は悪く、生活再建を妨げている。

若年層に精神疾患が多く、高齢層には身体疾患が多い。・女性の有病率はきわめて高い。メンタル部分は、DV被害者に多い。世帯単位の収入は多くても家計内再分配が行われないと女性は貧困状態になる。

★「精神及び行動の障害」により傷病手当を受給する人が増加 4.45% (1995年) →25.55% (2012年)・・・正社員の職場において働き方、追い詰められている。

### 解決するために必要な「処方箋」

★個人、家族の問題を社会の問題として取り組んできたが・・・

2000年 介護保険スタート

2001年 DV防止法 →今まで家族の問題とされていた

2002年 ホームレス自立支援法

2004年 東京都「ホームレス地域生活移行支援事業」

2006年 自殺対策基本法 障害者自立支援法

2009年 第二のセーフティネット開始

2013年 こどもの貧困対策基本法 生活保護法改正 &引き下げ 生活困窮者自立支援法

2012年「社会保障制度改革推進法」が成立

・家族相互、国民相互の助け合いの仕組みが基本 (2条1)

・給付の重点化および制度の運用の効率化をおこなう (2条2)

・年金、医療、介護は、社会保険料が基本 (2条3)

・社会保障給付の主要な税源は消費税とする (2条4)

雇用からこぼれた人を支える社会保障であるはずが、自助努力、家族でのささえあい (扶養) が基本であると明記されている。→社会保障を手厚くするのではなく、切り捨てていく方向性

都内の野宿者 (n=318) の4割が暴力被害経験あり。加害者の4割が子どもであり、物を使って襲撃する。東京都では、人権対策として、千代田区の小学校で、授業を行い、成果をあげている。

### 私たちの「これから」

日本は世界で一番の超少子高齢化社会である。

日本では6人に1人の子どもが貧困である。

日本は先進国で唯一、税の再分配後に子どもの貧困率が上昇している。

自分の身の回りに思いをはせてみる。クラスに貧困状態の人がいたら何ができるか、みんなで考えることが必要だと思う。